**育成」につながる根拠は何か。**

**答** 学ぶ喜びを味わったり、将来の夢を具体的にしたりしながら学習意欲を高め、さらなる高みを目指して努力したいという意欲を中学生段階で育成し、それを確かなものにすることで将来難関大学の進学等につながっていくと考える。

**問 手挙げ方式では「基礎学力に乏しい子どもたちの学力向上につながらない」のではないか。**

**答** 機械的ではなく子どもが受け入れやすいよう、学校の教員が「ちょっと勉強に行ってみたらどうか」など適切なアドバイスをしていく。

## 行政は市民リーダーに頼り過ぎ!?

**問 まちづくり等のリーダー的存在の市民と行政側が、より強固な信頼関係を築くために何が必要か。**

**答** 中心となって動いている方々に非常に大きな負担をかけている。市民との協働、市民主体のまちづくりの体制ができつつある中、負担の増加によって、立ち上がったリーダーの前向きな芽を摘んでしまわないよう、十分な意見交換をしていくことは以外に道はない。

## 「人口減少とまちづくり」について

**問 ここ数年、毎年160人前後の児童生徒数が減少している。そこで子どもたちの社会性の育成、人間力をより向上すべく、教育環境の整備を進めるべきではないか。**

**答** 小中一貫教育推進協議会で、中学校区のさまざまな課題を出しながら工夫改善策を話し合っている。協議会がますます充実するよう支援していく。

児童数が減る一方の保内小学校

**問 療育環境の現状、特に医療分野について子どもの育ちの支援における医療連携の現状はどうか。また、定期的な通院をしている子どもたちの保護者などから、その利便性などについて相談、要望は届いていないのか。**

**答** 新潟県発達障害者支援体制整備検討委員会に子育て支援課が参加している。地域の保護者ニーズを伝え、身近な地域で子どもの発達を診断できる県の療育相談の拡充などを提言していく。

## デマンド交通について

**問 26年1月に料金体系が見直された。改定した理由と、その後の利用状況はどうか。**

**答** 早い時期から考えていた。数件照会があったがおおむね理解を得たと思っている。利用状況は前年度比で87%、想定された数字だ。

## ものづくりと伝統技術の継承について

**問 鍛冶人材育成事業で鍛冶職人の希望者は何人か。また、事業所にどれだけ雇用されているのか。**

**答** 23年5人応募の中で3人、25年は5人中1人の計4人の新規人材を雇用している。

**問 大谷地和紙保存会が復活して6年となるが高齢化も進んでいる。新規鍛冶人材育成事業のような取り組みをしてはどうか。**

**答** 意欲的な活動により活用方法も広がっている。継続した取り組みを検討したい。

## 自然を生かした観光の振興について

吉ヶ平山荘にて

**問 吉ヶ平周辺整備で管理棟の雪に対する考え方はどうか。**

**答** 地元の方々の意見を設計に反映している。積雪5・2メートルで設計している。

**問 粟ヶ岳登山道アクセス道路整備は特例債事業だ。新たな特例債事業も発生した。その分削減されるのか。**

**答** 規模の削減などはなく舗装、公園など事業内容通り進めて行く。

## 技術系職員について

**問 採用と養成をどう考えるか。**





**答** 技術系の職員だけを増やすことはできないが、スキルの向上に努めたい。

## 住民票写しなどの第三者交付に係る本人通知制度について

**問 実施する考えはないか。**

**答** 上越市と新発田市で既に実施しているが、三条市では今費用対効果を調査中である。

## 複数の部や課にまたがる行政課題や事業について

**問 今後増えていくと思うがどのようにしていくのか。**

**答** 庁内全体を見渡した連携体制の構築にこれからも心掛けたい。

## IT関連施策について

**問 施策を推進してはどうか。**

**答** IT弱者を軽視することなく、民間の力を活用して市民総体のITリテラシーの向上を図っていきたい。

## 下水道事業について

**問 これからの展開はどうか。**

**答** 県下最低の普及率であるが、国や県の指導を仰ぎながら地域の実情に応じた適正な整備手法を検討し進めたい。

## 福祉施策について

**問 障がい者施設に対する基本姿勢はどうか。**

**答** 法人の運営費用や人員を公で賄うことはできないが、法人間の連携を強化し、持続可能な体制を構築したい。

## 隣接市との関わりについて

**問 県央医師会応急診療所について、まだに応分負担をしない加茂市だが、加茂市民の利用は年間1200人ほどあり、構成4市町村長連名で加茂市に応分の負担をさらに要請していくべきだと思うが、県央基幹病院の課題と併せ市長の今後の対応について伺う。**

応急診療所

**答** 加茂市長にはこれまでも負担の要請をしてきたが、これまでに何も回答いただいていない。県央基幹病院の設置やそれに伴う既存病院の役割分担の見直しなど、圏域全体の救急医療体制の整備のため連携を進めていかなければならない中、加茂市長には市民の健康を担う基礎自治体として、基盤整備の応分の負担を担っていただけるよう文書をもってご理解いただけるまで粘り強く要請を継続していきたい。県央医師会応急診療所や県央基幹病院の課題については、加茂市と連携も信頼関係も構築できていないが、関係市町村との密接な連携とその連携を続けていくことによる信頼関係の醸成が地域医療体制の充実強化に大切だと考えている。

## 農地法・農振法・農委法の改革

**問 規制改革会議の論議は、この本質まで変えていくようだが、どのような見解を持っているか。**

**答** 守るべき農地を確保しつつ、自治体が自ら転用や除外を決める権限を持てるようプロジェクトチームで7月をめどに国へ提言を行う。農業委員会は、現行で十分に役割を果たしているが、農業情勢の変化もあり今後の議論を注視している。

## 二元代表制と市長の行動基準

**問 議会との関係をどのように認識して行動基準を考えているか。**

**答** お互い切磋琢磨のために議員としっかり向き合っているが、政治家の一人として志を通じるための交流も大切にしている。

## 国道403号バイパスの課題

**問 この現状と課題はどうか。市としての今後の取り組みは。**

**答** 県事業は26年度買収、27年度遺跡調査、28年度盛土の計画で進む。認可の終点は塚野目で、この西側は都市計画決定しているが国道289号バイパスと石上大橋下流

国道403号（井栗街道）の渋滞が続く